

高塚直裕と川手鷹彦によるサロン文化

おどつづみ つくだ よしかつ

「ひと打ちで世界を変える大鼓」 佃良勝師をお呼びしました



2013. 10. 5. (土)

15:30 開場 16:00 開演

詩と藝術の館ポエティカ

夕張郡長沼町幌内（ポロナイクリニック隣）

主催 ポエティカ（館主高塚直裕）

参加費 2,000円 問合先 電話 0123-84-2864（ポロナイクリニック）

* 藝術プログラムの内容から、小学三年生以下のお子様は入場できません。

大鼓の響き

うた『天上の序曲～星への道』

戯曲『蟹の王子』より

大鼓と和歌の即興

出演 佃良勝

演出 川手鷹彦

ミカエルカレッジ演劇コース

伊達「言語造形」グループ



Die Sonne tönt nach alter Weise,
in Brudersphären Wettgesang ↓



地底深くに私は還る
荒ぶる神の棲家へと
地上に知恵と火を残し



■プログラムについて

*作品は変更されることがあります。

大鼓の響き

「ひと打ちで世界を変える大鼓」と述べたが、深く鋭く乾いた一打一打は、優れて周囲の空気を変える。

うた『天上の序曲～星への道』

ゲーテ作『悲劇ファウスト』の冒頭「大天使ラファエルのうた」に Otto E Crusius が旋律を施したものを基に、川手鷹彦が手を入れ作詩・作曲・編曲したもの。

戯曲『蟹の王子』より

ある日田んぼに出かけた爺さま、大きな石と石の間に挟まって出られない蟹を見つけて、助けてやる。ところで爺さまは婆さまと娘と暮らしていたが、山の蛇体の生け贄に、今年は娘を差し出さねばならなかった。いよいよ蛇にさらわれるという前の晩、助けられた蟹が爺さまの家を訪れ、娘を蛇体から守る秘策を明かすが…
パリ・ヒンドゥのキドゥング、能楽の謡いを取り入れ、実力者佃義勝の大鼓があしらわれた本格舞台作品より紹介する。

大鼓と和歌の即興

和歌史の頂点を担ったひとり、藤原俊成の作品から、四季の技の見事さ面白さが表現される。
川手による朗唱と佃の大皮（おおかわ、大鼓の別称）、掛け声と息遣い…

つくだよしかつ

おあつあつかた
能楽高安流大鼓方

1953年生まれ。東京芸術大学音楽学部邦楽科卒。故人間国宝安福春雄に師事。国立能楽堂養成科講師歴任。前東京芸術大学音楽学部邦楽科講師。能楽界の重鎮として、国内外の舞台に多数出演。法務省提案・川手総指揮/演出による少年少女のための演劇プロジェクト「オイディプス王」に参加。

かわてたかひこ

演出家・劇作家・藝術治療教育者

1957年生まれ。スイス・ゲーテアナム・言語造形/舞台藝術学院卒業。ゲーテアナム舞台アンサンブルに演出家・俳優として所属。東京大学・ドイツポッフム大学・スイス上記校など、国内外の諸大学で演劇・文学・治療教育・パリヒンドゥ等を講義。佃良勝始め能楽師との共作・共演も多い。